



明治6年7月23日開校

～自分の可能性を広げる子に～

福翔

二戸市立福岡小学校 学校だより
発行日 R7. 4. 17
第4号 (文責：筒井裕一)
二戸市福岡字下川又15
電話 0195-23-6155

「みんなのために!」「一緒に居たい!」を引き出して 「徳の力」を育てる

福岡小学校「まなびフェスト2025」の【徳の力】に関わって、ご家庭で取り組んでいただきたいことは次の3つです。

- ① 人との関わりをもとうとする子になるように、大人があいさつをしいる姿を見せ、家庭内でもあいさつをする。
- ② 周りの人を大切に思う子になるように、家族みんなで「ぼかぼか言葉」を使うよう、まずは大人が手本を示す。
- ③ 自分の良さが自覚できるように、家族の一員としての役割（仕事）を与える。

何を頑張ればいいのか？

ポイントは、「みんなのために!」と「一緒に居たい!」という気持ちを引き出すこと。

① 人との関わりをもとうとする子に育てるに

社会生活を営む上での必須アイテムである挨拶。挨拶ひとつで、相手との関係を和やかで親しみのあるものにし、その人とつながっていることを実感させてくれます。挨拶の良さを知っている我々大人が、まずは挨拶する人のモデルになりましょう。地域や家庭で、自分から挨拶している姿を子どもに見せましょう。子どもが挨拶を返したら微笑んで会釈を返しましょう。子どもから挨拶してきたら褒めましょう。挨拶は、子どもの可能性を必ず広がります。



② 周りの人を大切に思う子に育てるに

周りから大切にされた経験が、周りの人を大切にしようとする心情を育みます。気持ちは、言葉や態度に表して初めて相手に伝わります。まずは、我々大人が子どもたちに「あなたのことを大切に思っているよ」というメッセージを発しましょう。その第一歩が、「ぼかぼか言葉」を使うことです。そのためには「みかんほかんの法則」を使うといいそうですよ。 ※裏面につづく

「みかんほかんの法則」

み：「み」とめる（認める）

かん：共「感」する

ほ：「ほ」める

かん：「感」謝する



③ 自分の良さを自覚している子に育てるために

周りから頼りにされたり、あてにされたりした経験が、その子の責任感を育み、自分の役割（仕事）を最後までしっかりと果たそうとする人へと成長させていきます。毎日できる仕事、やらないと周りが困る仕事を任せ、本気で頼りにすること。やってくれたら感謝の言葉を伝えること。やらなかった時は本気で困ってみせること。周りの人から必要とされた経験が「自分の良さの自覚」につながります。

次回は、「まなびフェスト 2025」の「体の力」について説明いたします。



校庭の桜についてのお知らせ

「校庭の桜が倒れて道路に落ちてくるのではないか」という地域の方からのご指摘を受け、教育委員会にお願いし、専門の方に診ていただきました。出された結論は、「危険な状態にある木が相当数ある。伐採した方がいい」というものでした。

この判断を受け、教育委員会と協議した結果、危険と判断された桜を今年度の冬に伐採することにいたしました。長い間、子どもたちや保護者、卒業生や地域の方に親しまれてきた桜です。伐採に対して様々な意見があつて当然です。ですが、危険な状態にある木をそのまま放置するわけにはいきません。どうかご理解願います。

長い間、子どもたちを見守ってきてくれた桜。ぜひ、今年は見にいらしてください。そろそろ咲きそうです。

